

明治大学の校友として

1. 校歌との出会い

私は、四国の高松の出身です。最初の明治大学との出会いは、高校時代にテレビで見た六大学野球で校歌を歌う明大生の姿です。その力強さに魅力を感じ、将来この学校で学びたいと思うようになりました。入学もしていないのに明大校歌を歌う明大志望のおかしな高校生でした。1年の浪人生活の後に明治大学工学部へ入学することができたときは本当にうれしく思いました。

2. 恩師との出会い

大学生活で一番大きな出会いは人生の師匠である設計工学研究室の井沢先生との出会いです。いま機械関係の仕事を自信を持って出来るのも、先生の指導で技術者としての基礎の部分を作っていただいたおかげです。研究室では、語学の苦手だった私は海外の技術文献の翻訳に苦労しました。私のとんでもない誤訳に先輩の方が笑いをこらえる中、先生は、厳しい中にもやさしさのある声で「基礎をしっかりと勉強しなさい」とおっしゃり丁寧に指導していただきました。研究室での生活は、明治大学らしく、「まず体を使って行動する」で研究室に交代で寝泊りしながら実験装置を回していたことを思い出します。時には夜を徹して研究について激論することもありました。すべてが私にとって貴重な経験でした。充実した生活ができたのも先生や友人、父や母、多くの人に支えられたおかげと感謝しております。

3. 校友との出会い

卒業後に精密部品の会社に入社して奈良で生活を始めました。入社後16年目に海外駐在員としてイギリスで8年間生活しました。その時、英国明治大学同窓会に参加しました。定期的にロンドンでハブの会があり、様々な経験を持った明大OBと出会いました。はじめて会った人ばかりでしたが、皆さんが明大OBとしの誇りを持って生きていることを強く感じました。あるパブの会で、最後に校歌を歌ったとき周りのお客さんも輪に入ってきて大いに盛り上りました。この校歌には何か人をひきつける力があるのだと思いました。「これは何の集まりだ」と聞くイギリス人に「日本には明治大学というすばらしい大学がある」と皆で宣伝しました。駐在生活での困難な時期に、この会の仲間から多くの力をいただいたと思います。

4. 明治大学校友会奈良県支部への参加

帰国後、校友会活動の大切さを強く感じ校友会奈良県支部に参加しました。明治大学とは、学校、在校生だけでなく卒業生や父兄の方すべてで作られている大きな人の輪だと思います。その輪の一人ひとりが明治大学の歴史を刻み続けていることに気づきました。私も微力ながら校友として未来の明治大学を一緒につくることに力を尽くしたいと思います。

以上